



植木剪定会員の研修

草刈り会員の研修

## 事故防止の安全確認

・・・ 安全講習会開催される

◇第7号◇  
平成28年5月  
普及啓発委員会

2～3月にかけて機械除草・植木剪定・草取り等に従事する会員122名の参加をもって、安全就業研修が実施された。始めに、安全・適正就業委員会の原川委員長から、最近の事故発生の件数が25年度15件・26年度19件と増加傾向にあり、27年度の事故発生も予断を許さない状況であるという話があった。これを踏まえ事故の撲滅に全員で取り組む決意が表明された。

### ◆事故撲滅のポイント◆

#### 【植木剪定作業】

◇安全運転講習会◇  
【駐車場内での事故防止】

- ① 危険予知訓練(KYT)の実施。
- ② 安全帯は必ず着用、2m以上
- ③ の高所作業時は確実に使用。
- ④ チェーンソーの使用は、資格修了証のある者に限る。
- ⑤ 向かい合わせでの刈り込み作業は、絶対に禁止。

#### 【機械除草作業】

この事故は全交通事故のほぼ70%を占める。

#### 【出会い頭・追突事故防止】

- ① 現場確認は時間をかけて行い、作業に入る前にその状況を全員に注意徹底。
- ② 作業後の確認を徹底。
- ③ 剪り払い機による事故は、1人作業時に多いことを念頭に置いて作業する。
- ④ 熱中症に注意。
- ① 黄信号は停止と心得よ。
- ② 自分が優先道路でも相手の動向に気を付ける。
- ③ 交差点は事故多発地点と心得よ。
- ④ 交差点では特に前車の動向に注意。

◎全員で事故ゼロを達成しよう！

## ◆ 平成 27 年度第 3 回地区長・班長会 ◆

### “会員同士の連携・交流を深めよう”

2月23日（火）センター2階会議室において地区長・班長会が開催されました。

会議の始めに、大井理事長から、本年度もセンターは会員の活躍で事業実績を上げていること。また、国は高齢化社会の中でシルバー人材センターの事業に期待し、補助制度を見直していることの報告があり、私達も國の方針に沿って、会員がお互いに連携し、地域社会に貢献するシルバー人材センターの取り組みを更に発展させて行きたいので、皆さんのご協力をお願いしたいと挨拶がありました。

大井理事長の挨拶の後、センター事業について松浦事務局長から説明があつた。

#### 会員の就業率向上のために

- ① 会員の皆さんと役員・事務局との連絡を密にして、作業効率を上げて行きたい。
- ② 安全就業・事故防止に努める。
- ③ 市民の日常生活の中で、家事や介護の援助を応援する事業活動（例えば、ワンコイン事業など）の取り組みを検討する。

#### 【委員会の報告】

##### ★事業推進委員会

小柳津委員長

- ④ 就業開拓と新会員の募集について、会員の更なる協力を頂きたい。

##### ★普及啓発委員会

大島委員長

会員同士が  
顔なじみになろう！

シルバー人材センターは、地区長（13名）・班長（82名）で

市民の皆さんにシルバー人材センターをPRする「シルバーふじえだ」と会員だより「藤薫」を発行。また、新会員を募集する“入会説明会”を毎月行っている。会員だより「藤薫」は、皆さんの広場なので、意見や要望・趣味の広場なので、意見や要望・趣味や俳句・短歌などの活発な投稿をお願いしたい。歓迎します。

#### 【地区ごとの話し合い】

##### ★安全・適正就業委員会

原川委員長

シルバー事業は、高齢者の経験や技能を活かして、働く喜びと地域社会に貢献することを目指し、当委員会ではシルバーの仕事が市民の生活を支援する活動として、更に役立つように就業の開拓と、会員同士の仲間づくりを図りたい。そのために、地区や班ごとに「会員が交流

する集い」を開催する。  
② 地域の中から、就業の場を見出す「一会員一事業運動」。

こうした活動が新事業の開拓や新会員の入会促進につながるものと確信する。  
稻葉・瀬戸谷地区では、既に地区会を開催したが、シルバー事業をより活発にするため、他の地区でも地区会議を開催して、会員同士の交流を盛んにして頂きたい。

事故ゼロを目指そう！

特に、植木の剪定作業については、作業別の安全基準も設けて事故防止に努めている。また、交通事故も交差点での出会い頭や追突事故、駐車場内の事故などが多く発生しており、安全運転講習会も同時に実施した。

## 稻葉・瀬戸谷地区で

### 地区集会が開かれる



事業推進委員会は、シルバーの組織活性化に、会員の相互の交流、コミュニケーションが不可欠であると提唱していた。地区の班会を稻瀬地区がその先陣を切つて、去る2月19日（金）「藤の瀬会館」で会員15名程の参加で行われました。

例年、年初めに会員がお世話になっている事業所や自治会長宅に、理事・監事が訪問し挨拶をしていました。

今年も事業所・自治会長宅など198ヶ所にわたる多くの訪問をしてきました。

事業所でのシルバー会員の就業状況に対する評価は、概ね好評なものでした。

会員の皆さんには、各人がシルバー人材センターの看板を背負つて就業されているわけですが、皆さんが誠心誠意仕事に取り組むこと、それが、就業の継続、更なる拡大への大きな後押しに

となりました。  
今後このような集会がそれぞれの地区で行われ、活力ある「シルバー人材センター」としての社会的存在感をアピールしていく 것입니다。

稻瀬地区役員 原田昌宏

### 会員の仕事ぶりに感謝

### 協力事業所等への訪問

会員M（70歳）  
若い母親にとって初めての子供の誕生。赤ちゃんは生後20日位、母親が抱っこしても夜も昼も眠らず泣き通し、母親も一緒に泣き出す。寝不足で少し鬱気味？ 赤ちゃんも可哀想だ。

「30分くらいぐっすり眠りました。母親からシルバーにSOS。

私にお手伝い出来るかな？ 自信もなく、とにかくお宅へ伺いました。伺った時は午後1時。朝から2時間くらい抱っこして

も眠らないと不安顔。お母さんは不安が赤ちゃんにそのまま伝わる、安心して眠る事が出来ないようだ。なれない母親はゆり

ばかり赤ちゃんと胸に抱き、まだ見えない目を見てゆっくり話

なつていると感じた挨拶回りの訪問でした。

### バアバの知恵袋

新米ママさんは2時間くらい起きてこない。余程眠かったのかな。部屋には育児の本、育児日誌がある。昔の子育てと現在の子育ては随分違うと思うけど、本ではなく、ご両親や、保健センターなどに相談したらどうだろうかと思いました。

若いおかあさん達、本よりも生の声の方がいいと思いますよ。2時間お手伝いさせていただきましたが、後日、安堵と不安が残りました。お役に立てたかな？ 大丈夫かな？ 子育てにもつともっとバアバの知恵袋を活用していただけたら、バアバも知恵袋をお貸し出来るのにと思いました。



当日は理事長・事務局長・事業推進委員長にも出席いただき、「シルバーの現状と今後の課題」などをテーマに熱氣溢れる集会

## 書道部20年の歩み

栗田健吾

書道部は、平成7年8月に発足以来21年目を迎えました。早く続けられたものだと思います。

寺田信次郎さん（元理事長）

より、互助会発足と同時に「書道部を立ち上げくれんか」と言われた時、一瞬断るつもりでいました。というのも小生には人にものを教えたことも無ければ、講釈みたいなことをしゃべるなんて無理とか、苦手だとか考へていていた自分。一方で自分の勉強にもなるのかなと考えている自分も居て、やつてみるのも「有りかな？」と思ったのが、



「高齢者社会」と言われるなか、誰もが元気で生活したいと願っている一方で、認知症やアルツハイマーになる人が増加しており、10年後には、高齢者の5人に1人が「ボケ」老人になるという推計結果もある。

そこで「ボケ」ない対策として、「仲間がいる事・考へる事・趣味を持つ事・笑う事・歌を歌う事・旅やオシャレをする事」などを心がけ実践する人は、「ボケ」難いそうです。即ち、仲間や周りの人と関わりを持つことが大切なんですね。一人で自由に悠々自適の生活なんていうのが、一番「ボケ」への早道なのかもしれません。

お互いシルバー人材の仕事・人間集団との関わりを通して元気で健康な老人になりませんか。また、そのようなシルバー人材にしたいと願っています。

20年も続くことになるとは自分でも「ビックリポン！」です。

静岡には書道塾も多くあります。書道誌も沢山あってその中から「書豊」誌を選び会員となつて19年、今では会員の中に師範格の腕達者が揃つております。人材は豊富です。しかし、皆さん謙虚でいまだに稽古の感覚を緩めず毎週土曜の午前中は、お互いの作品を持ち寄り、研鑽に

励んでおります。月例競書はもとより、各種書道展への出品に静岡には書道塾も多くあります。益々皆様に愛され、読んで樂しい広報紙を目指したいと考えております。写真の作品は静清書展」という書道展に出品したものが、当部からは毎年30点ほど出展し、今年は1万6千点といふ厖大な応募作品の中から選ばれた大賞準賞100点の中の1点です。

### 【編集後記】

広報紙「藤薫」をお送りします。益々皆様に愛され、読んで樂しい広報紙を目指したいと考えております。

会員の小柳津茂弘さん  
(雅号  
茂舟)の作品

老人クラブの皆さん、地域サロンの世話人の皆さん、ぜひひと声をかけてください。元気いっぱいの会員がお邪魔します。よろしくお願ひします。

普及啓発委員長  
大島靖之